

かまにし

第67号

発行 地域力推進蒲田西地区委員会
編集 地域情報紙編集委員会

「ご存知ですか？」 ドッジボール東京大会優勝！ 道塚ドリウムウイングス



東京大会優勝

皆さん、ドッジボールをご存知ですか。でも、わが地元で小学生の強豪チーム——道塚小学校を拠点とする「道塚ドリウムウイングス」が存在することは、あるいはご存知ないかも……。

（低学年中心）の二グループに分かれて行っています。監督と八人のお父さんコーチ、保護者のボランティアによって運営が支えられています。

昨年の戦績を見てみましょう。第27回全日本ドッジボール選手権東京大会の優勝（七月）をはじめ、同全国大会ベスト8（八月）、第3回南関東ドッジボール選手権優勝（三月）、第29回都民スポーツふれあい大会準優勝（九月）、低学年の部でタイガー優勝など、ホームページは百花繚乱。

昨年七月一七日の東京大会。道塚ドリウムウイングスは順調に勝ち進み、決勝でMMD C（武蔵村山市）を破って出場二チームの頂点に立ちました。

チームのスローガン「戮力（りくりよく）協心」そのものの記念すべき一日でした、と代表兼監督の瀬尾泰広さん（40歳）は述べています。選手・指導者・保護者、加えて交流他チームの関係者、すべての想いが一つになって「道塚ハーモニー」を奏でることができ

たとも。

そのままの勢いで臨んだ翌月の全国大会では三戦全勝で決勝トーナメントへ。その第二試合準々決勝で、SG Special（栃木県代表）に8-9で惜敗！出場四八チーム中のベスト8で涙を呑んだのでした。

ドッジボールは「避球」とも訳されます。odgeには「素早く身をかわす」意味があるからです。その競技は、二名対二名で五分間の一セットマッチ（準決勝以降は二セットマッチが多い）で行われ、最終的に内野に残っている人数の多い方が勝ちとなります。

ボールを投げる・捕る・避ける……三位一体の技術力と集中力が試されます。そのため、毎週土・日曜日（各三時間）に行われる練習、プラス水曜日（一時間半）の自主練習にも部員たちは真剣に取り組んでいます。

目標？ 答えはもちろん全国大会優勝だそう。が、全国優勝は目的ではない、全国優勝という目標に向かって「汗を流す」「涙を流す」というプロセスの大切さを子供たちにも感じてほしいと熱く語る瀬尾監督の言葉がとても印象的でした。

わがまらの顔

新蒲田ファミリーバンド



団員、集合！

その名もユニークな「新蒲田ファミリーバンド」略称SFBは、子供から大人まで一緒に音楽を楽しもうと、新蒲田を拠点に、平成二四（二〇一二）年に誕生した吹奏楽団です。

子育て中のパパ・ママとその子ども、ブランクがあった人、気軽に吹奏楽を始めたい人……こんな人たちが集まっています。

皆さん既にお馴染みの、胸にSFBのマークの入ったオレンジ色のTシャツを着て、「子どもガードンパーティ」「あすばうフェスタ」や「東京モノレールまつり」などの地域のイベント、更には介護老人施設を訪ねて、アニメ・歌謡曲を中心に活発な訪問演奏を行っています。

現在、団員は三七名（二〇〜五〇歳代）。そしてお子さんが二九名（〇〜一二歳）在籍し、幼児はパパ・ママが練習中は近くで絵描きやおもちゃで遊んでいます。一緒に演奏することもあり、小学生は司会・進行も務めます。

指揮者の浅沼秀明さん（43歳）はこのバンドの発起人であり、代表でもあります。二児のパパ。ベビーが入団すると、（かつて我が子をそうしたように）抱っこひもで前抱きして棒振りするのが無上の幸せと顔をほころばせます。

訪問演奏とは別に、年に一度の演奏会。昨年はその第三回演奏会が七月九日、大田区民センター音

追記 「道塚ドリウムウイングス」は「平成29年度大田区青少年表彰」（スポーツ・文化部門/団体）を受けました。

（取材 多田（宜）委員）

蒲田西特別出張所管内

人口	男	32,266人
	女	29,795人
	計	62,061人
世帯	35,041世帯	

平成30年2月1日現在

「かまにし17」をお読みいただき、ありがとうございます。情報紙に対する「ご意見やご感想、または投稿など」ございましたら、お気軽に事務局までお寄せください。

事務局 蒲田西特別出張所
大田区西蒲田七二二一七
電話 3732・4785

楽ホール（定員七三一名）で開かれました。ここでも、全曲の紹介を小学生団員が担当し、楽器に挑戦したい子は、練習時から大人に交じって頑張りました。

当日のプログラムは

- *第一部 アンサンブルステージ
|| 金管七重奏、木管五重奏、サクソファンサンブル
- *第二部 吹奏楽ステージ
|| ジャズパニーズ・グラフィティ12（銀河鉄道999、宇宙戦艦ヤマト）、THE SEVENTH NIGHT OF JULY-TANABATA—ほか

その多彩な内容と演出に魅せられて、せいぜい「カラオケ演歌」程度の素養？ しかない筆者がフルタイム、釘付けに……。

例えば第一部の木管五重奏の内容は「ぶらり首都圏発車メロディの旅」でした。なんと、JRの発車メロディー「七曲（もちろん蒲田駅のそれも）を木管五重奏で吹いてしまったのです！

今年の演奏会は八月一九日（日）大田区民プラザ大ホールで催されます。皆さん、お楽しみに。

《同バンドへの連絡先》

sinkamata_fb@hotmail.co.jp

（取材 山口委員）

加納久宜さんが

「かまにし」に載った後

加納久宜（かのうひさよし）さんについて記事を書いた大良です。平成一九年九月一日に発行された本紙第五号に加納さんについて記事を書かせていただきました。日本体育大学荏原高等学校の創立者（初代校長）で、池上競馬場を日本による初の馬券付き競馬を開催し、大森の山王の闇坂に住み、自宅で信用組合を妻と始めて（都内最古の信用組合で城南信用金庫の基となる）など、これが本場に一人の人が行ったことなのかと思わせるようなことをたくさん成し遂げた方で、記事を書きながら、びっくりしました。

ところで、今回お話しするのは、九月一日に本紙に加納さんの記事が載った後の後日談です。

荏原高校事務長さんのこと
「かまにし」が発行された月は次回に向け編集会議が開かれます。九月二〇日に蒲田西特別出張所で開催された編集会議で担当者から「加納さんの記事を見た荏原高校の事務長さんが出張所に来られ、先生方に配布したいと五〇部持ち帰られた」と報告がありました。

このことをお聞きして、筆者としては大変うれしく感じました。直接お礼の気持ちを伝えたいと思いい、荏原高校を訪ねました。事務長さんは突然の来訪だったのに大変喜んで対応してください。荏原高校グッズをプレゼントしてください。加納久宜公研究会に行ってみませんか」と案内してくださいました。

加納久宜公研究会とは？
今は何でも検索できますので、「加納久宜公研究会」で検索していただければ、概要がすぐわかると思います。この時、私が事務長さんから案内されたのは「加納久宜公研究会第二二〇回定例会（一〇月一七日午後七時）」テーマ「信用組合運動と加納さん」で「語り合う会」のVTRを視聴しながら話し合いを進めますとのことでした。会場は一宮町中央公民館ということでしたが、一宮町はどこにあるのか、その時は私には全く知りませんでした。

上総一ノ宮に行ってみました
一宮町が千葉県長生郡にある町で中央公民館がJR外房線の上総

一ノ宮駅の近くであることを調べた後、一〇月一七日はたまたま仕事が出来なかったこともあり、当日午後から上総一ノ宮に行ってみることにしました。

自宅から約二時間の電車旅でしたが、無事上総一ノ宮駅に到着。最初に中央公民館の場所を確認する途中で、町役場に入ってみると加納久宜さんの胸像が入口にありました。

胸像の台に書いてあったこと

加納久宜（かのうひさよし）
一宮藩主、元一宮町長、子爵



胸像の左下に「寄贈 長生信用組合」右下に「寄贈 千葉銀行」とあり地域の皆様に愛されていることがわかります

嘉永元年（一八四八）〜大正八年（一九一九）
慶応三年（一八六七）一九歳で一宮藩最後の藩主となり、明治二年（一八六九）の版籍奉還後、学校長や大審院検事、県知事（鹿児島）、貴族院議員等を務め、全国各地で活躍しました。また東京競馬会や学習院大学、信用組合の設立など日本の産業振興にも貢献しています。明治四五年（一九一二）、六四歳で一宮町長となり、産業振興、婦人会や青年会の創立、女学校や病院の設立、大磯町にならった別荘地開発などを積極的に進め、現在の町の基礎を作りました。亡くなる前年、加納町長の行った様々な偉業を称える顕彰碑が建てられ、没後は農地をのぞむ城山に有志によつて墓が作られました。



城山に有志が作った加納さんのお墓でここから町を一望することができます

城山に登りました

城山がどこにあるのか知らないまま、まちを歩きますと、大きな看板が現れて加納さんのお墓に導かれました（前頁下左写真）。

お墓からまちを一望することができます。そのまま進むと大きな碑が現れました（左の写真）。碑の右側には解説がありましたので写してきました（下の段）。

もう暗くなってきましたので、駅前で食事をした後、中央公民館に向かいました。二階には加納さんの漫画が飾ってありました。日本初の職業漫画家である北沢楽天が書いたものだそうです。



一宮町指定文化財 記念物史跡 加納公紀徳の碑（写真の左側）
※右にある解説文は下段のとおり

（前略）加納久宜公の遺徳を後世に伝えようとしたものである。

公は、明治維新以来三十余年にわたり、地方行政や貴族院議員として国政に尽力し、鹿児島県知事をへて、晩年は、旧藩地一宮町へ帰り、一宮町の地方行政の発展に寄与した。

明治四十五年、町長に就任し、駅下の耕地整理を始め、農政に力を注ぐ一方、観光開発をはかり、大正二年公設一宮海水浴場を開設し、名士の別荘誘致をはかった。また、女子の婦徳涵養、情操の陶冶、教養の向上を考えて、私立一宮女学校の創設などその施政は各方面にわたり、町政に活力をもたらしした。

在職六年、大正六年に退任した公の業績をたたえ後世に残そうと町民は相談し、旧一宮町役場に建立されたのは同七年三月で、生前建立としては珍しいものである。この建碑にかかわった貴族院議長公爵徳川家達は徳川宗家の後継者であり、銘文の後藤新平は外務大臣、内務大臣、東京市長等もつとめたすぐれた政治家であり、書の野村素介は後の日本書道会の会長で、すべて当代一流の人物である。

この碑は昭和六十三年十一月に現在地（一宮三四〇四）振武館入口に移された。（後略）

加納久宜公研究会（第二二〇回例会）に出席しました

ドキドキしながら自己紹介して出席させていただきました。たくさん資料をいただき動画を見て加納さんの業績を学びます。私が「かまにし17」で書いた記事をお見せすると、皆様とても喜んでくださいました。

一緒に加納さんのことを学んでいるだけなのに、この気持良さは何でしょうか。加納さんの人徳とでも言わないと理解できません。

一〇月一七日のテーマは「信用組合と加納さん」で映像をもとに意見交換。今年の二月に行われた墓前祭「加納公を語り合う会」の録画映像を見ながら話しました。



一宮中央公民館 2階に飾ってあった加納さんの漫画（1912年1月の「東京パック」から）

お話されている城南信用金庫の前理事長が神奈川新聞で「わが人生」の連載をしていること、一宮の絵葉書の回覧など、加納公についてのお話が尽きず、あつという間に午後九時となりますが、すぐ駅に行かないとその日のうちに帰宅できません。駅まで走り、なんとか帰りました。十一月二日の第二二二回例会、十一月九日の第二二三回例会、一月一六日の第二二四回例会にも出席しました。二月二四日に献花式と語り合う会、四月二二日に生誕一七〇周年記念フォーラムが開催されます。すっかり加納さんの魅力に引き込まれてしまいました。

（取材 大良委員）